

本康歯科ニュース



「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！！

今年の1月の中旬頃に愛知県豊橋市のある歯科医院の医院長が自殺未遂をして世間をにぎわしました。簡単にまとめると他の患者さんに使ったインプラントや、院内感染の危険性のある物を適正な滅菌・消毒をせずに使い回しをしていたそうです。それがわかったのは勇気のある良心的なスタッフの内部告発によるものだと聞きました。豊橋の知人に聞いてみたところ、何年か前にその医院に通っていてインプラント治療を10万円でおこなってもらったとのこと（1本インプラント治療をしようとする世間の相場は約30~40万円と言うことです）。かなりショックを受けていました。

本康歯科クリニックは皆様に安心して治療を受けていただけるようスタッフ一同日々精進しております。また厚生労働省より滅菌や感染予防をしっかりとしている医院に認可がおりる歯科外来環境体制加算を取得しております。院内の至るところにある情報版にてご確認ください。また治療を行う側からの視点では見落とししてしまう事もあるかもしれませんが、皆様の治療を受ける側の視点にもたって見落としの無いようにがんばってまいります。でもそれだけでは足りないかもしれません。さらなる強化をはかる為、気付いた事があればご意見ください。みんなで本康歯科クリニックを盛り上げていきましょう。そして一緒になって健康、幸せを手にしていきましょう。

おもしろ歯科情報

将軍が使っていた「歯みがき剤」と「忠臣蔵」のふか〜い関係

江戸時代の「歯みがき剤」の主役は「塩」でした。

その歯みがき剤の作り方は、塩を松の葉と一緒に竹筒に入れて焼き、それに味をつけて歯をみがいたそうです。

また、歯みがき剤として使う塩にも“ブランド”があり、中でも将軍のご用達は、赤穂藩（現在の兵庫県赤穂市を含む周辺地域）が作る「赤穂の塩」が最高級品でした。この「赤穂の塩」は将軍がとても気に入ったことで“NO.1ブランド”となり、赤穂藩はとも潤ったそうですが…



実は、この「赤穂の塩」がきっかけで、皆さんもご存知の「忠臣蔵」の事件に繋がっていきます。

当時、「赤穂の塩」の作り方を真似ようと思った藩はとも多かったそうですが、その作り方を真似ても同じ品質の塩はなかなか出来なかったようです。そこで吉良上

野介は、赤穂藩主の浅野内匠頭に「塩の製法を教えてください」とお願いに行きますが、何度お願いしても製法は最後まで教えてもらえませんでした。



どうしても知りたい吉良は、手下を赤穂藩にもぐりこませて製法を盗もうとしますが、ばれて捕まってしまう、これが原因で吉良上野介は赤穂藩に“いじめ”を始めます。そして、そのいじめに追い詰められた浅野内匠頭は、江戸城で吉良上野介を切りつけ、それに対する罪として切腹を申し付けられます。すると、これに納得の行かない浅野内匠頭の家老たちが吉良の屋敷に討ち入り、仇討ちを果たしたのです。

このように時代劇でもよく知られている『忠臣蔵』は、将軍が歯みがき剤として使っていた“塩”がきっかけとなって始まった事件だったのです。